

筑紫の娘子、行旅に贈る歌一首

三八一番

家思ふと心進むな 風まもり よくしていませ
荒しその道

筑波の岳に登りて、丹比真人国人の作る歌一

首 并せて短歌

三八二番

鶏が鳴く 東の国に 高山は さはにあれども
二神の 貴き山の 並み立ちの 見が欲し山と
神代より 人の言ひ継ぎ 国見する 筑波の山を
冬ごもり 時じき時と 見ずて行かば 益して恋
しみ 雪消する 山道すらを なづみぞ我が来る

反歌

三八三番

筑波嶺を 外のみ見つつ ありかねて 雪消の道
を なづみ来るかも